

[第36回]



ビューローベリタスジャパン株式会社

代表取締役社長 外崎 達人 氏

試験・検査・認証のグローバルリーダー ～世界140か国1,600拠点、あらゆるステージでお客様をサポート～

ビューローベリタス (Bureau Veritas) は、フランスのパリ近郊のヌイイ・シュル・セヌに本拠を置く試験・検査・認証のグローバル企業です。1828年に、世界で2番目に古い船級協会として設立されました。船級協会とは、船舶の船体・機装・機関について、構造や状態が良好であると認め、船級の登録に関する規則を定め、その検査を行う機関です。

ビューローベリタスは、その後、試験・検査・認証機関として、ビジネスの領域を「産業設備・機器検査」「ISO認証、検証・監査」「国際貿易検査」「建築認証」「消費財検査」「食品分析」などに拡大し、世界140か国1,600拠点に84,000人の従業員を擁する巨大企業に成長しました。

日本におけるビューローベリタスは、1953年、横浜市と神戸市に同社のフランス船級協会検査員事務所が設立されたのが始まりです。2002年には、ビューローベリタスジャパン株式会社が設立され、現在は、北は北海道札幌市から、南は九州福岡市まで拠点を有し、従業員数約840名（グループ会社を含む）を擁する企業となっています。

今回のインタビューでは、代表取締役社長の外崎達人様から、「信頼できるパートナーとして、法規・規格への適合性確認にとどまらず、リスク低減、パフォーマンス向上、持続可能な発展の促進につなげる革新的なソリューションを提供する」という同社の事業戦略について、詳しく語っていただきました。

ビューローベリタスグループとは

— はじめに、ビューローベリタスとは、どのような企業なのかをご説明いただけますか。

外崎 ビューローベリタスグループは、1828年の設立以来、試験・検査・認証のグローバルリーダーとしての高品質なサービス提供を通じ、品質、健康・安全、環境保護、及び社会的責任分野（QHSE & SR）の課題に取り組むお客様をサポートしてきています。ビューローベリタスグループは、“Business to Business to Society（社会と事業に役立つ企業）”として、お客様に提供するサービスがより良い世界を作ることを目指しています。

ビューローベリタスグループの大きな特徴の一つとして、「完全に独立した第三者機関」であることが挙げられます。



このことは、世界中どの国においても、当グループの試験・検査・認証は信頼される、ということにつながります。そもそも、「ベリタス」とはラテン語で「真理」を意味する言葉で、当グループの基礎となる考え方を示しています。当グループのロゴに含まれる人物のシルエットは、この考え方を象徴するものです。

— 御社のWEBサイトを見て驚いたのですが、ビューローベリタスグループは、全世界に数多くの拠点をお持ちなのですね。

外崎 はい。ビューローベリタスグループは、世界140か国に1,600拠点を有しており、従業員数は約84,000人、お客様の数は約400,000社、年間売上高(2022年)は57億ユーロ(約9,300億円)となっています。地域別の売上高を見ると、ヨーロッパが34%と最も多いのですが、アジア太平洋地域の成長は著しく、現在30%のシェアを占めています。中国におけるビジネスの伸びが目立っていましたが、最近は、インドやマレーシア、フィリピンなどの東南アジアでのビジネスが伸びています。

日本企業を支える ビューローベリタスジャパン 株式会社

— ここで、ビューローベリタスジャパン株式会社について、教えてください。

外崎 ビューローベリタスグループは、フランスに本社を置く企業体ですが、ビューローベリタスジャパン株式会社は、日本社会の活性化や日本企業への支援を目的として活動しています。従業員数はグループ会社を含めて約840名、お客様の数は約12,500社、年間売上高(2022年)は約140億円となっています。ビューローベリタスグループ全体におけるシェアを見ると、従業員数では約1.0%、お客様の数では約3.1%、売上高では約1.5%ということになります。

— 効率的に多くのお客様に対応し、大きな売上高をあげている、ということですね。ところで、具体的に、どのような事業をなさっておられるのでしょうか。

外崎 「船級」「産業設備・機器検査」「ISO認証、検証・監査」「国際貿易検査」「建築認証」「消費財検査」「食品分析」など、あらゆる試験・検査・認証を実施しています。建物を建てる際の建築確認検査も行いますし、食品のカロリー数や成分量の検査も行います。

— 当協会の賛助会員企業のビジネスの関連では、どのようなサービスが御社から提供されるのでしょうか。

外崎 例えば、日本のエンジニアリング企業が、中東地域で化学プラントのEPC事業を行う際に、当社がどのようなサービスを提供できるか、をご説明しましょう。まず、ビューローベリタスジャパン株式会社が窓口となって、日本のエンジニアリング企業の方からお話を伺います。その上で、モジュールを韓国でつくるということであれば、モジュールの検査は韓国のビューローベリタスが行いますし、完成したプラント全体の検査は、中東地域のビューローベリタスが行います。ビューローベリタスグループは、世界

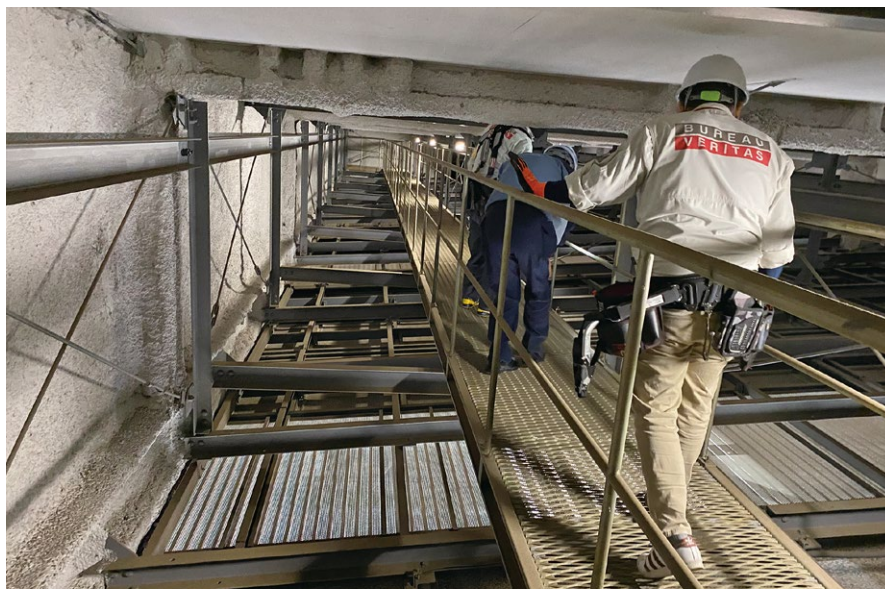
140か国に拠点があるため、こうした対応が可能です。

— 日本から世界各国のプロジェクトに対応できる、というのは大変ありがたいですね。

外崎 日本国内におけるビジネスにおいても、当社が日本企業のビジネスをサポートできる分野が数多くあります。特に、最近増加している風力発電設備の審査、CO₂の排出量の検証、人権監査などは、新しい分野かつ当社の得意分野です。

まず、風力発電設備ですが、従来経済産業省が安全性の審査を行っていましたが、民間の機関による審査も認めることとなり、当社が登録適合性確認機関として経済産業省より登録を受けました。風力発電は、ヨーロッパが先進地域であり、必要な人材をヨーロッパから連れてくることもできる、という利点が当社にはあります。もちろん、日本は地震が多く、ヨーロッパと全く同じでいい、ということにはなりません。当社の社員とグローバル人材の知見を組み合わせることにより、より良いサービスを提供できる、と考えています。風力発電に関するサービスは今後一層力を入れていきたい、と考えています。

また、東京都や埼玉県では、エネル



建築設備定期検査の様子

ギーを大量に使用する大型事業所を対象として、CO₂の排出量取引制度があります。今後、こうした制度を採用する地方自治体は増えていくと思われますが、当社は、適切な検証サービスを提供できるノウハウを有しています。

さらに、全世界的に人権問題への関心が高まっています。例えば、機械に使用されている部品の一部に奴隷労働によりつくられたものが入っていないか、商品の運搬に当たって労働時間規制違反はなかったか、といったことは、従来あまり問題とされてきませんでしたが、今後は、こうしたことにも十分注意を払う必要があり、当社がお役に立つ面が多いと思います。

加えて、AI利用の拡大によるITリスクへの対応なども、当社が日本企業にサービスを提供できる分野だと思っています。

全世界の規制情報を提供

— 世界各国で様々な理由から新たな規制が導入されており、日本企業がその全てをフォローするのは大変ですね。

外崎 おっしゃるとおりです。多くの検査機関では、「お客様が検査をしてほしいと言ってきたら対応します」というところが多いのですが、当社では、積極的に全世界の規制に関する情報を発信しています。当社のマーケティング部や各事業部からは、メールマガジン、出版、セミナーを通して日本企業にとって特に有益と思われる情報を発信しています。例えば、「EUにおいてこんな環境規制が導入されました。日本でも近いうちに同様の規制が導入されるかもしれません」といったものです。お客様からは、「ビューローベリタスのセミナーは実務に役立つ」といった評価を頂戴しています。

また、当社には営業担当者が30名おり、お客様と常に接触しています。我々はコンサルタントではないので、お客様のビジネスのやり方を直接的にアドバイスすることはできません。し

かし、世界の規制や規則の情報についての知見をもって、例えば、自動車を輸出する際に、こういう規制があるので、こういう検査が必要である、といった話や、自社の取り組みを可視化するために、ある認証を受けておいた方がいい、といったことを申し上げることはできます。

— 確かに、そうしたアドバイスを頂戴すれば、自社の製品の販路を拡大する際に、どのような検査・認証を受けておくべきかが分かりますね。

「人間力を持った専門家」が 目指すべき人材像

— 御社のビジネスの様々な面をご紹介いただきましたが、ここで、御社が目指す人材像について伺いたいと思います。御社のビジネスから考えて、様々な分野の専門家が不可欠なのでしょうね。

外崎 はい。当社のビジネスは様々な産業分野に関係しているため、それぞれの分野における専門知識と経験を有している人材が不可欠です。自動車の規格の監査を行うには、自動車の専門家がが必要です。また、監査を受ける組織の方は専門家ですから、監査をする当社の社員の知識と経験が同等以上でなければ、説得力がありません。さらに申し上げれば、専門性が高いという



だけでも不十分だと考えています。監査内容をお客様に十分にご理解いただくためには、お客様とのやり取りのプロセスが重要と考えています。「お客様へ温かく接する」「お客様から信頼される」といった「人間力」が重要だと考えています。

当社では、専門的な知識を高めるという観点から、OJTや資格の獲得を奨励しているほか、専門以外の分野、例えばマネジメントや語学などを勉強する、というプログラムを年間30時間程度実施しています。

試験・検査・認証は、法律に基づくものも多く、会社の資格や免許のみならず、個人の資格や免許に関わるものがあります。そういう意味で厳しい仕事ではありますが、やりがいのある仕事であるともいえます。

外崎 達人 (とのさき たつひと)

1964年宮城県に生まれる。

1984年国立宮城工業高等専門学校建築学科卒業、同年株式会社青木建設入社。2006年株式会社ニューシティコーポレーション入社。2008年ビューローベリタスジャパン株式会社入社、建築認証事業本部経営管理部副部長就任。2014年インサービス検査事業本部本部長、2015年営業統括本部本部長(兼務)、2020年取締役、チーフオペレーティングオフィサー、2021年代表取締役社長就任、現在に至る。一級建築士。



人生の指針は 「常に成長を目指して チャレンジ」

——最後に、外崎様ご自身のお話を伺いたいと思います。座右の銘といったものはお持ちですか。

外崎 そんな立派なものを持っていないのですが、「人生は常に成長を目指してチャレンジする」というのが、私の信条です。私自身は建築関係の出身ですが、分野に関わらずめまぐるしくニーズが多様化する中で、常に勉強を続けています。

——御社のビジネスの領域は幅広いので、勉強も大変ですね。ところで、なぜ御社に入社されようと思ったのですか。

外崎 外部から当社を見て、「フランスの会社なのに、日本でISOなどの特定の分野では非常に高いシェアを占めており、検査などを通じ日本の安全を支

えている面白い会社だな」と感じたのがきっかけです。

——冒頭おっしゃったように、「フランスの会社だが、日本社会のために活動している」ということに共感されたのですね。

最後に、社長として心がけておられることは何でしょうか。

外崎 一つ挙げるとすれば、社員のエンゲージメントを高めることです。昔と違って、現在は転職が自由に行われる時代になっていることから、いかに社員の皆さんに「当社で働き続けたい」と思ってもらえるかが重要だと思っています。当社は、北は札幌市から南は福岡市まで多くの拠点を持っています。情報交換や意見のやり取りを行う、というだけならオンライン会議で十分ですが、社員のエンゲージメントを高めるためには、会って話し合う必要があると考えており、私はできるだけ対話の機会を持つようにしています。

——社長業というのは、大変なお仕事ですね。本日は、お忙しいところ、大変ありがとうございました。



インタビュー後記

ビューローベリタスジャパン株式会社の本社は、横浜市の大さん橋近くにあり、船級協会から始まったという同社の歴史に相応しい場所にあるな、と感じました。

インタビューを行う際には、事前に会社のWEBサイトをチェックするのですが、ビューローベリタスグループのWEBサイトは、グローバル企業に相応しく、内容が多彩かつ豊富で、大変分かりやすいものでした。

今回の外崎様のお話は、エンジニアリング協会の賛助会員に関連する事業分野に焦点を当てたものであり、ビューローベリタスジャパン株式会社のビジネスの全体像は、インタビュー記事ではカバーしきれませんでした。同社は情報発信に熱心なことから、当協会においても講演をしていただくようお願いいたしました。

聞き手：当協会専務理事
前野 陽一



企業データ

社 名：ビューローベリタスジャパン株式会社
事 業 内 容：船級、産業、建築認証、システム認証、食品分析、インサービス検査、コモディティ、消費財検査、政府指定検査・国際貿易検査
設 立：1953年
所 在 地：神奈川県横浜市中区山下町22
従 業 員 数：843名（グループ会社含む／2023年3月末現在）
ホームページ：<https://www.bureauveritas.jp/>

